

成果報告書

担当者：渡邊 学

講座名：第1回 大学農場で学ぶ食と農と生物学

実施日：令和元年8月1日

受講者数： 21名

定員数： 20名

受講料：なし

目的

農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢農場のもつ豊かな教育研究資源を地域社会に開放し、フィールド実習教育の体験を通し、生きるために欠くことのできない食と、それを支える農に対する理解を深める場を提供する。農業、農学、生物学に興味のある高校生と保護者が、滝沢農場で夏季の農作物栽培管理を体験する。これにより、参加者が食と農と生物学に関する理解を深め、また、高等学校で学習している教科（特に生物）と農業との関わりを知る機会となる。日常の高等学校での学習の動機づけだけでなく、岩手大学農学部への入学希望者の増加も期待できる。

活動実績

担当教職員：由比 進、渡邊 学、阿部 岳、村上政伸、田口芳彦、中西 啓、西 政佳、
武田伸也、大堰康夫

午前中は、3通りの作り方の水田と50年続く肥料試験水田を見学した。休憩を挟み、ミニトマトを教材としてメンデル遺伝学について解説した。その後、クッキングトマトとエダマメの収穫を体験した。昼食は、滝沢農場の生産物を一部利用したおにぎりとお肉汁を用意した。参加者と教職員と一緒に食事をする会食形式とした。また、同時に、農場所属学生による1分間研究紹介を実施した。午後は、エダマメとトウモロコシについて、3日前に収穫したものと収穫直後のものを食べ比べし、生産物の品質管理と植物の呼吸や蒸散との関わりを解説した。その後、リンゴとブルーベリーを見学し、ブルーベリーの収穫も体験した。最後に質疑応答時間を設け、終了した。

今後の課題

第1回目の開催であり、参加応募者があるかどうか不安であったが、結果的には定員を超える参加者があった。配布用ポスターを農場学生に作成してもらい、高校生受けの良いポスターに仕上がったのが良かったのかもしれない。しかし、この中には4名の一般参加者も含まれているため、今後は、主な対象である高校生への周知方法を検討したい。

参加者の多くが滝沢農場に来る際、道に迷っていた。農場への分かりやすい案内図を作成し、参加者には事前に配布するようにしたい。

食材や学生への謝金が予算超過したため、次年度以降、予算計上時に注意したい。

独自アンケートの結果、参加者全員から「満足した」との回答を得た。特に水田の見学とブルーベリーの収穫体験に興味を持った参加者が多かった。これらのアンケート結果を来年度の計画に生かしたい。